

Ⅰ 教育・子育て

- 小学校5年生、6年生の子どもたちへのアンケートによると、どのようなまちになってほしいかという問いに対して、遊園地とか、娯楽施設を作って欲しいという願いでなく、安全安心なまちをつくって欲しいという回答が半数を超えた。そうしたことから、子どもたちの心身の安全を守るということを構想に記載しているのは大変素晴らしいと思った。
- 少子化が深刻である。結婚、妊娠、出産、子育てにおける切れ目のない支援をしていく中で、どの支援も重要だが、特に結婚に関する支援を強化する必要があると思う。コロナ禍で、出会いが減少し、婚姻数が非常に減少していると聞く。婚姻数が減少しそれが出生数の減少に繋がる傾向もあるのではないか。
- 多くの方が親になることに夢や希望を持っているが、それが実現できていないので少子化が進んでいる。従って、どのように希望を実現していくのかという視点は一番大事であると思う。構想にある「希望を実現する支援策の充実」は少し言葉として弱い印象を受ける。結婚、妊娠、出産、子育てをまち全体で、行政や地域などいろんな方々が支えていくというメッセージを盛り込んでもらうと良いのではないか。
- 「多様な働き方ができる地域づくりの推進と男性の育児参画」について、「参画」という言葉は、育児の主体が女性であることを意味するが、妻が夫に本来求めていることは一緒に子育てすることである。構想は今後の岐阜市の未来の姿を示すものだが、その構想にこの言葉を使うのは果たしてどうなのかと思う。
- 「公立保育所の民営化の推進及び多様な保育サービスの充実」とあるが、民営化を前面に出して、保育サービスが民営化により多様化し、充実すると述べると、公立保育所の存在意義が問われかねない。例えば、保育サービスの多様化と充実化を図るための手段の一つとして民営化するという表現であれば理解できる。
- 公立保育所の民営化について記載があるが、公立でしかできないこともある。草潤中学校の取組みは上手くいっているが、公立であったからこそできたこともあるのではないか。民営化するにあたってのメリットとデメリットを考える必要がある。
- 未来の教育の方向性として、選択して行動する力、変化にしなやかに対応する力、そして新たな価値を創造する力を育む教育ということは、まさにこれからの時代に必要となる力を端的に示していて、重要だと思う。
- 子どもたちに「食」の大切さを教えるという視点を構想に加えてほしい。「食」を通して、地場産品の購入、給食への有機無農薬の農産物の利用などの活動を行えば良いと思う。
- 学校現場からは、少人数学級に取り組もうとしても人手が足りないという声を聞くが、コロナ禍の経験を踏まえ、改めて少人数学級に取り組んでいく方向性も視点として大事ではないか。
- 同じ義務教育の学校でありながら、研修校や実習校というように学校に違いをつけることが、先生方にどれほどプレッシャーであったのか、子どもは置いてきぼりという状況ではなかったのか、と懸念している。どの学校、どの児童生徒においても、適切に行き届いた教育を行うという観点が大事ではないかと思う。
- 教育の現場は人手不足など大変なご苦勞をされている。計画的に人材確保に取り組んでいくといった文言を構想のどこかに入れていただきたい。子どもたちが豊かに育つためには、それを支える、先生やスタッフの質と量の両方を上げることも大切だと思う。
- 岐阜市は金華山や長良川などの自然に恵まれているが、子どもたちがこういう自然に触れられる機会が少ないと感じる。小さいころから自然に親しむ楽しさを味わう機会を作ってほしい。
- 若い世代が増えて、子育てしやすいまちになるには、他の人の意見や価値を認め、意見交換できる寛容性を育むことが大切である。岐阜市がそうなるために、地域の活動に参加する機会が増えると良いと思う。

- 地域で子どもを育てるという視点が重要だと思う。地域活動を通して、子どもたちに岐阜市は良いところだと思ってもらい、岐阜に住みたい、いずれまた岐阜に帰ってきたいと思ってもらえるような教育活動に地域全体で取り組むことが求められると思う。
- 「地元の学校が素晴らしいと評判になれば、ここに住もうとする人が増えてくるのではないかと資料・参考3の「市長と地域との懇話会」に記載があったが、我々教員は、学校を運営するなかで、こうした声に応えていかなければいけないし、岐阜市のまちをより良くしていくという高い志を持つことが大切だと感じた。

2 健康・福祉・医療

- これまでも健康寿命を伸ばすための施策や事業をやってきたと思うが、参加者が少ないという課題があった。無関心な層・世代へどう普及啓発していくのかという視点が求められているので、市民のやる気を引き出すインセンティブを作るなどの仕組みが必要だと思う。
- フレイルが進んでいる。コロナ禍が1年半程続き、皆さんが心身ともに弱っている気がする。また市民の方のネガティブな発言が増えているような感じもする。フレイル予防の取り組みなどの情報を発信することで、少しでも市民の皆さんが前向きになってもらえたら良いと思う。
- 人生100年時代とあるが、ただ生きていけば良いわけではない。社会の一員として活躍できる人生100年であることが重要だと思う。そうした人生を送るために必要な健康を支えるのは、働くことなどによって得られる生きがいだと思う。健康や雇用などさまざまな視点から取り組めれば良いと思う。
- 高齢者が多くなり、今後、認知症への対策など様々な課題が増えていくと思う。そうした課題に対して、官民が連携して知恵を絞って取り組めると良い。
- 「外国人市民にとって暮らしやすく活躍できる多様性を活かしたまちづくり」とあるが、例えばコロナのワクチン接種を考えると、言葉の壁があり、集団接種のような対応は難しい。他の市町村のように特別枠を設けて接種をすることができれば市内の外国人の感染を防げたのではないかと思う。
- コロナ禍で、非正規労働者、ひとり親家庭、高齢者など多くの方が大きな影響を受けた。社会から孤立しないという視点が重要であり、支援体制の仕組みづくりが必要だと思う。

3 市民協働・防災・環境

- まちづくり協議会は、50地区中、43地区で設立され、残り7地区が未設立である。つながり支え合う地域コミュニティへという方向性の中で、まちづくり協議会の機能を強化していく必要がある。
- 外国人の方は、食生活やゴミ出しなどの生活習慣が日本人と異なるが、地域に多様な人たちがいることはとても良いと思う。外国人の方を受け入れ、上手くコミュニケーションがとれる自治会活動という観点も大事にしてほしい。
- 今年8月の豪雨の際に、ある地域では、地域の皆さんが自主的に広報車を使って呼び掛けたことなどにより、多くの方が無事に避難することができた。避難の際には早い段階からの周知がとても大事であると実感した。
- 今年8月の豪雨の際、避難所開設が行われ、後日、反省点や問題点を指摘する機会があったが、その結果の活用が今一つできていないのではないかと。地域の実情に応じて対策を行うことが大切だと思う。
- 防災減災を考えるなかで、防災も重要だが、いざ災害が起こった時に、復旧までのエネルギー供給、食糧、水をどうするかという要素を大事にすれば、災害発生後の対応力を含め、安心して暮らせるまちになると思う。
- カーボンニュートラルに関して、岐阜県森林公社はオフセット・クレジット（J-VET）という排出権取引を行っているが、そうした様々な制度があることを情報発信し、周知していくこと

が大切である。

- 脱炭素化に向けた取り組みは、美しい岐阜を維持していくのに重要である。金融機関では、SDGsに取り組まれた事業者に対するローンの仕組みを用意している。これは環境に配慮した企業活動が、持続可能な社会の実現に寄与するという考えで取り組んでいる。こうした活動を自治体と連携を取りながら行っていけるといい。
- 人口40万人の中核市である岐阜市では、農地が市街地の中にも存在している。これは環境面に多大な貢献をしていると思う。そうしたことから農地をどう保全していくかという観点を大事にするべきだと思う。
- 個人所有の森林で、枝打ちしたり、間引きをしたりすることができず、山の荒廃が深刻になっている。岐阜市の土地利用の中で森林の占める割合は低くない。個人が持っている森林をどう保全していくかという課題は、次の世代を考えた時に重要だと思う。その解決に向けて国、県、市がリーダーシップを持って取り組む必要がある。
- 森林の保全は、危険な作業もあるし、経験も大事なので専門の方でないで行うことができず、何か問題が起こったときに即席で対応できるものではないと思う。こうした保全活動は、雇用につながる面もあり、人材育成に力を入れる必要があると思う。

4 産業・労働・交流

- ブランド発信については、市が単体で行うことも非常に重要だが、岐阜県域など、周辺地域を巻き込んだ幅広い連携を行わないと効果が薄れてしまう。
- 今後は、東京のような大都市モデルだけで経済を活性化していくことはなかなか難しいと思う。これからは、地域の質的価値の向上に向けて活動していくことが大事である。そのために地域内で経済を循環していくシステムを構築していくのが重要だと思う。
- 今は環境問題を含め、様々な課題があるが、行政と民間の連携をこれまで以上に強固にして、お互いの強みを発揮していくような関係性を構築し、社会問題を解決していくことが重要である。
- コロナ禍において、事業者は、販促ツールに限られ非常に苦勞している。そうした現状を踏まえ、販促ツールをプラットフォーム化して、ビジネスマッチングをウェブ上で行う仕組みも始まっている。こうした取り組みにより、お互いの顔を見ながら、商談ができる。デジタル化をすぐに進められない中小企業の支援にもつながっている。
- 温暖化が進み、農産物を作ることが非常に難しくなっている。こういった問題に対して、産官学で研究を行い対策を考えることが必要ではないかと思う。
- 農業分野の脱炭素化に向けたキーワードは地産地消だと思う。カーボンニュートラルを目指して地産地消を進めていくときに、市を挙げて有機無農薬に取り組めると良いと思う。
- 農業では、地産地消が大事だが、地域で必要なものは地域で賄っていく「地消地産」といった逆転の発想もあって良いのではないかと思う。
- 観光まちづくりにおいて、観光消費額をどのように上げていくのか、また、観光消費額を上げるために観光資源をどのように活かすのかという視点も検討してほしい。
- 岐阜市には教科書に掲載されるような戦国の歴史に関する資源が存在する。それが観光客を呼び寄せるキーワードにもなる。構想内に戦国の歴史に関する記述をしてほしい。
- 経済活動の基盤は労働にある。その労働が安定したものでないと生活者は結婚など次のステップに進むことができない。コロナ禍により職を失うなど働く女性が大きな影響を受けた。女性が安心して働き、子育てを行うことができるのが良い。そして、女性のアイデアを活用し企業が発展するような仕組みを考える必要があると思う。
- 特定の分野では、業務量が多く、人手不足という話を聞く。人手不足の解消に向けた検討をする際には岐阜市の特徴にあった対策を考えていく必要がある。岐阜市でしっかりと稼ぐことができる認知されていけば、人も子どもも増えていくのではないかと思う。

- コロナ禍により、介護施設や医療施設などで働く人が重要であることを痛感した。これからの時代は、そういった仕事に対して、もっと高い評価を与え、福祉、医療の現場における雇用の創出を担っていくことが大事である。
- パソコンなどの機器の問題や、家族が密集してしまうなどの理由から、テレワークが行えない方もいる。そうした方に対して、例えば公民館の一部をワークスペースにするなど、まちづくりの中での展開も検討してほしい。

5 都市基盤整備・交通・中心市街地活性化

- リニア中央新幹線の開通に関する記載を構想に入れてほしい。リニア開通後、その沿線に東京、中京、近畿圏約7000万人という世界最大級の都市圏ができる。リニア開通による恩恵の多くを受けるのは名古屋だが、岐阜市も名古屋と共に日本が発展するエンジンになれる可能性がある。創造性の高い人材を育成することは大事だが、大きな経済圏が生まれる魅力があって、国内外から人材が集まってくるまちをつくることも重要ではないかと思う。
- これからは自動車の使用を抑制して、自転車や歩行者が安心して走れるまちづくりを進めてほしい。自転車や歩行者の移動であれば市内回遊率も上がると思う。これからはスピードを求めたのではなく、ゆったりと移動を楽しみ、目的地へ行く時間を楽しめるような取り組みを行ってほしい。
- センターゾーンに力を入れ、まちなかに賑わいをつくり出そうというのは良いと思う。ただし、その取り組みを進めるにあたっては市の郊外の人を含めた合意形成を大事にしてほしい。

6 行政経営の視点

- 40万市民がどこに住んでいても、ある程度の範囲内、徒歩圏内で行政サービスを受けられるように取り組んでほしい。

7 (仮称)岐阜市未来都市構想全体に関すること

- 構想は方向性を示しており、ここから具体的な分野別計画が立てられるということであれば、構想に細かいことを一つずつ網羅してしまうと、構想としての意義を成さなくなってしまう。
- 将来像に掲げる、「人がつながる、創造が生まれる、変化にしなやかに対応」というキーワードが、まちづくりの基本的な考え方や分野ごとの方向性や行政経営の視点に組み込まれていくようにしてほしい。
- 構想を見ながら、語り合えるようなものになると良い。学校教育でも活用しながら岐阜市の未来について語れると素敵だと思う。
- 構想の中身は岐阜に住みたい、高齢者になっても住み続けたいまちと思えるようなものであって欲しい。
- カタカナが多い。英語やカタカナを少なくするとともに、岐阜の方言を使用するぐらいでも良いと思う。
- 施策の方向性が個別に書いてあるが、施策同士に繋がりががあるので、その繋がりをうまく見せることができると良いと思う。
- 構想は行政資料的ではなく、イラスト等含めて、若者たちへのメッセージが見えるような形に作っていただけると大変ありがたい。
- より良い構想とするための鍵の一つは、いかに市民の皆さんへ周知し、理解を得るかである。構想内でオールぎふのまちづくりや市民協働などのキーワードを何度も使用している。市民の理解、参加がなければ、絵に描いた餅になってしまう。市民の理解を得るためにも、市民の皆さんにわかりやすい言葉でお知らせをする努力が必要である。
- 冊子も大事だが、若い世代にはYoutubeをはじめとする動画が人気である。そういった現状を踏まえ、構想の内容を若い人や子どもたちにどう浸透させるかを工夫してほしい。

- 冊子だからこそ理解ができる人もいれば、例えば動画などのコンテンツにより理解できる人もいると思う。
- 市内には日本語の読めない外国人もいる。そうした方に向けて概要版でも良いので、英語版を作成すると良いと思う。そうした情報発信を続けていると多様性を重視する岐阜市が見えてくると思う。

以上